いろいろな視点から問題を見つめて解決できるように

資質・能力で小中の授業をつないでみませんか？

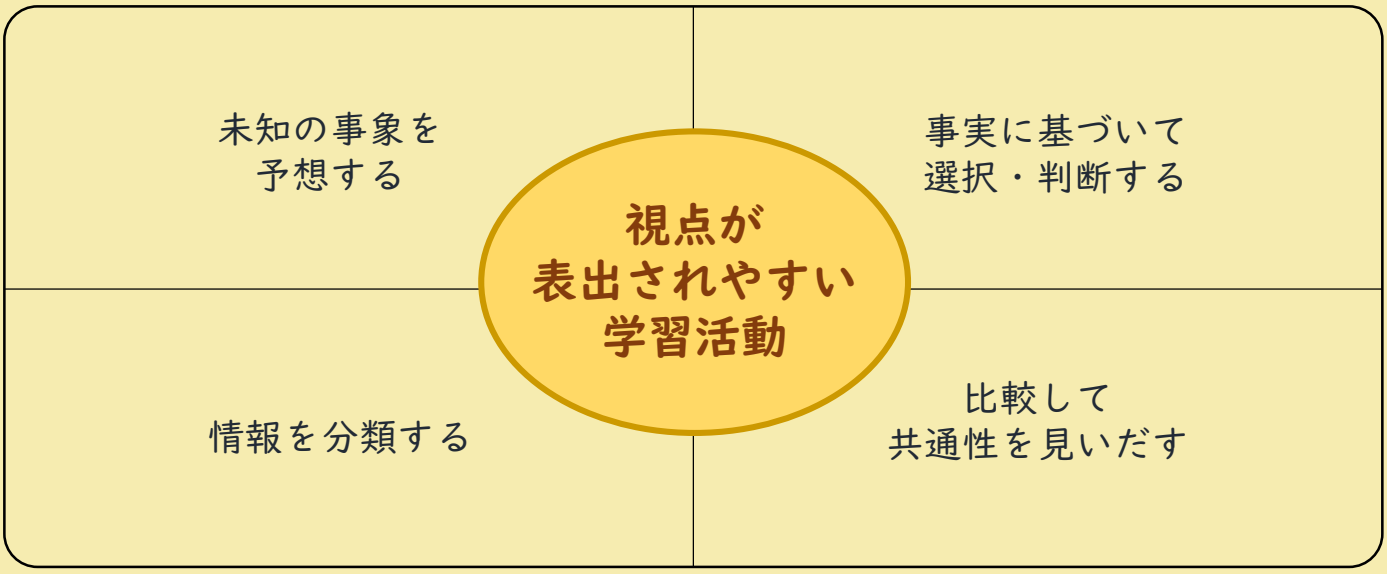
学ぶ意味を実感できる社会科を目指して
－小中で多面的・多角的に事象を捉える力の育成を通して－

京都市総合教育センター　研究課・カリキュラム開発支援センター

手だて①　視点の習得・発揮を促す

小中の全指導者が「だれでも」「いつでも」取り組めれば，子どもたちが力を習得・発揮する機会は多くなり，学習していることの有用性も実感しやすくなると考えました。

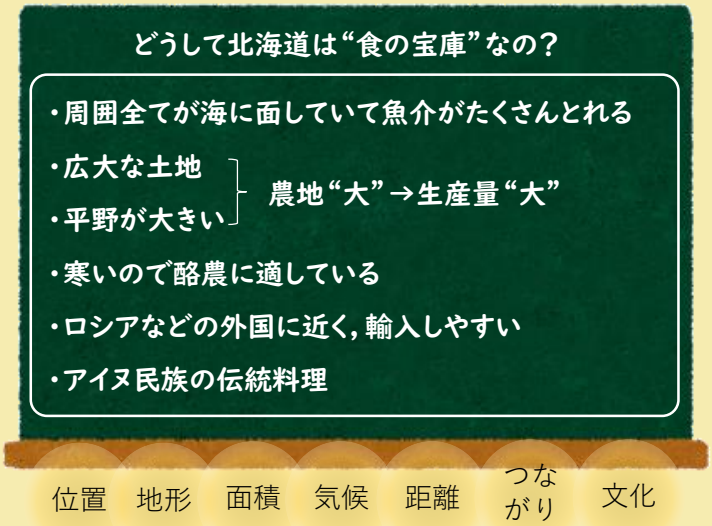
研究では，多面的・多角的に事象を捉える力を育むため，日常的に行われている学習活動の中から４つに注目し，それらを「視点が表出されやすい学習活動」と捉えてみました。



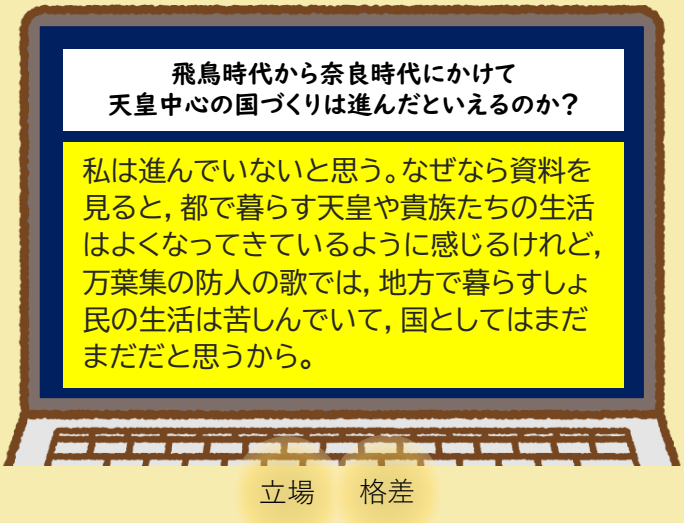
例えば“予想する”は，予想のずれを，調べていく動機付けとして位置付けます。
“選択・判断する”活動は，根拠や理由など論理的な思考を促すために位置付けたりもします。
「視点が表出されやすい学習活動」とも捉えてみることで…

子どもたちが　**思考の過程で働かせている「視点」**　が見えてきませんか？

予想する



選択・判断する



子どもたちは，実に多様な視点から課題を見つめ，考えを形成していることがわかります。

ですがそのことを，**本人たちでさえ，おそらく自覚していない**のではないでしょうか？

研究で目指したのは，次のような姿です。

目指したのは，
こんな子どもたちの姿です。

政府が個人の
行動を制限するのは
どう思う？

わたしは賛成。
“安心安全”
だから

“人権”という
視点からも
考えたらどう？

**他の視点からも
考えた方が
よくない？**

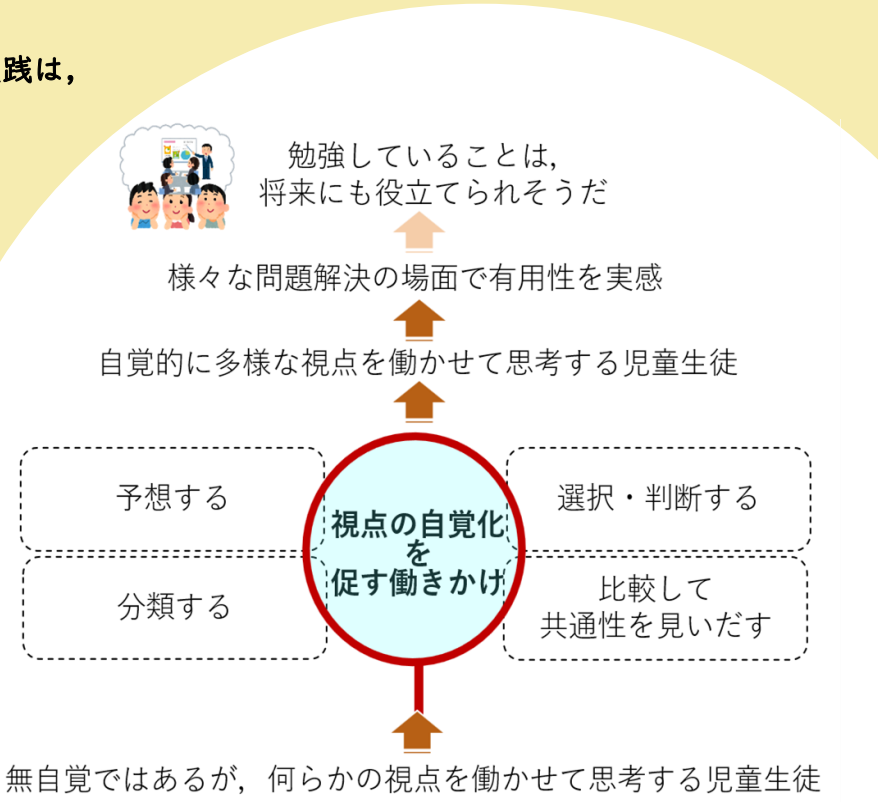
自覚的に
多様な視点を働かせて問題解決しようとする姿

多面的・多角的に事象を捉える力を育む実践は，これまでもたくさん行われてきました。

それなのに，上のイラストのような姿がなかなか見られない現状はありませんか？

子どもたちが多様な視点を自覚的に働かせて考えられるようになるには，「視点が表出されやすい学習活動」を単に繰り返すだけでなく，

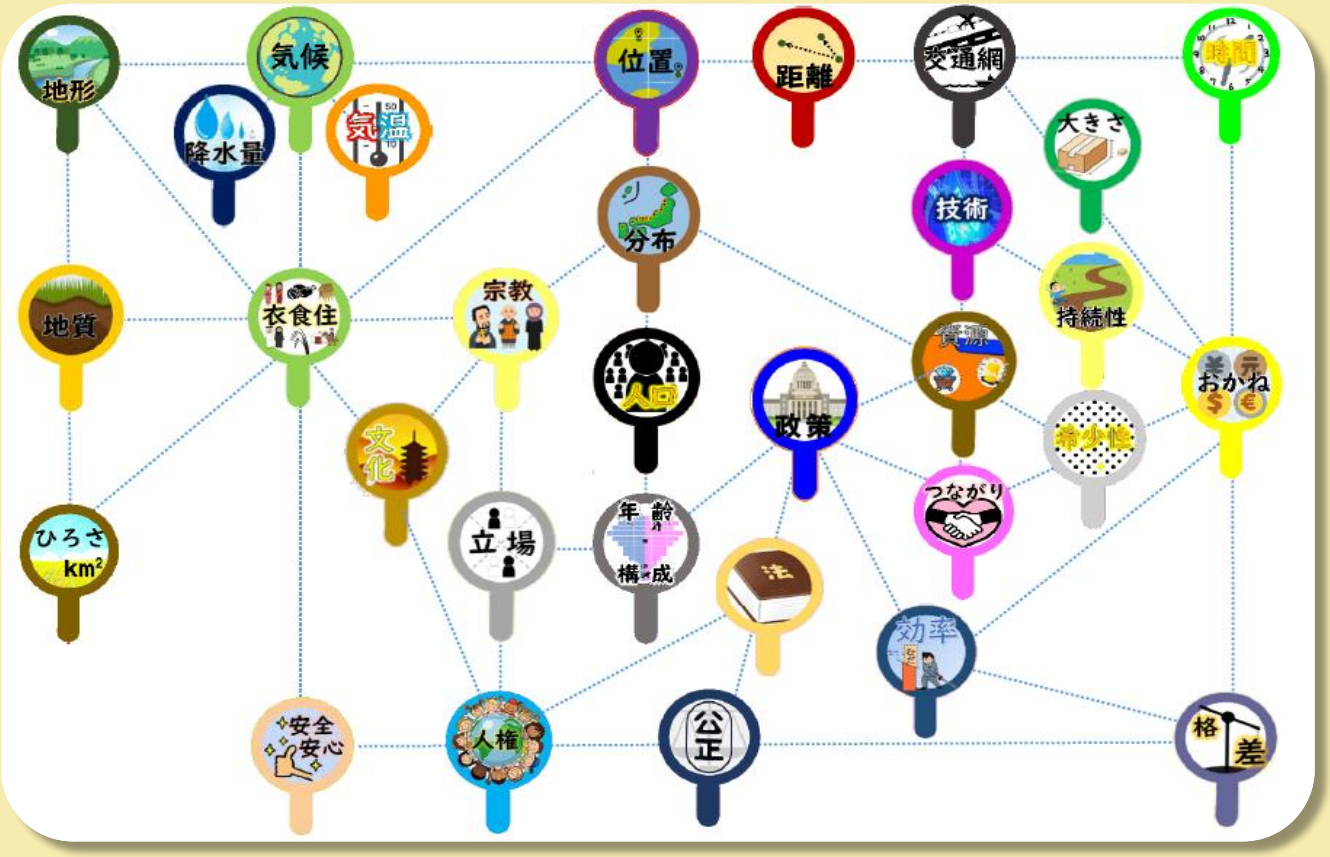
自覚化を促す働きかけも必要だと考えました。

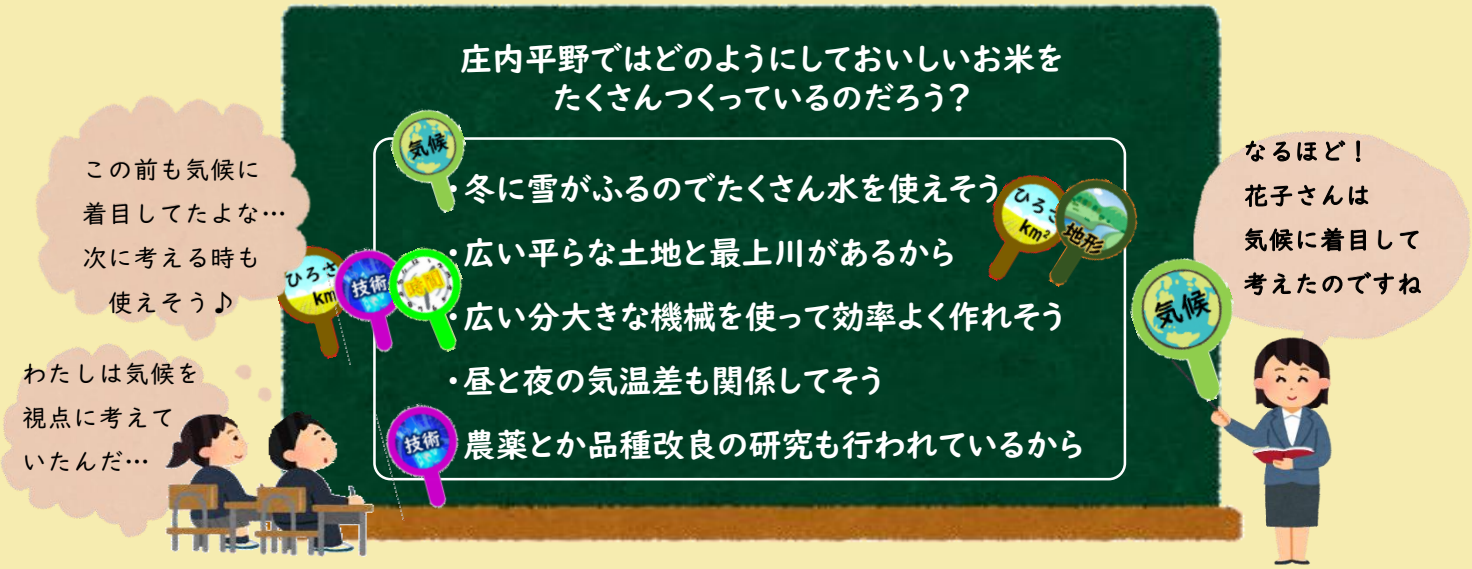


手だて②　思考の過程を価値付ける

視点の自覚を促すポイントは，思考の過程で発揮されている視点の **可視化** です。

可視化には，「**見えるーペ**」という道具を用いました。





思考の結果の正誤だけに着目するのではなく，思考の過程に着目し，

発揮されている視点を可視化しながら明示的に価値付ける

ことで，視点の自覚的な運用を促します。

学習していることが将来にわたって役立つという実感を醸成していくためにも，この価値付けがとても大切です。

実践では，GIGA端末の学習支援ソフトの共有機能を使って，子どもたち自身で，自他の考えに内包される視点を価値付けたりもしました。

成果　子どもたちの変容

☞ 思考の過程に着目した学習の振り返り

〇〇さんは，買う人や売る人の立場という視点やお金や国と国のつながりという３つの視点から考えていました。わたしは１つの視点からしか書けなかったので，今度は，もっと他の視点もないか考えてからまとめたいと思いました。

小学５年生「食料生産と私たち」
食料自給率は高めるべきだろうか？より

今日の授業では，人口という視点に引っ張られすぎた。大都市との距離とか交通網，地形という視点が完全に欠けていた。

中学２年生「日本の諸地域－関東地方－」
関東地方での工業はどこでどんなものが生産されているのだろうか？より

（前略）一票の価値についての問題や比例代表のしくみについて，初めて知ったこともあったが，立場という視点をもっていれば，ある程度，（最初から）予想できていたように思う。

中学３年生「民主政治と政治参加」
民主政治の実現に向けて大切なことは何だろう？より

視点を可視化して価値付けることを繰り返していくうちに，小学生であっても中学生であっても，思考の過程に着目した記述が見られるようになっていきました。

自分の考えが一面的だったことを自覚していたり，多様な視点をもっておくことの有用性に気付いたりしていることがうかがえます。

☞「学習していることが将来にわたって役立つ」という実感

実践後，子どもたちは “社会科で学習していること” をどんなふうに受け止めたのでしょうか？学習していることは「とても役立つ」と回答した中学生に尋ねてみると…

Q：社会科の学習の，どんなことがどんなときに役立ちそう？

地域とかお金とか宗教とか…
そういう視点から
“一つの物事には一つの面しかない”
という考え方ではなくて，
色々な視点から見ていると，
そのことを読み取れたり，
くわしくなったりして，
他のこととつなげて
生かすことができる

産業革命が起こったとき，
環境や人権？という視点が
足りなかったように，
何かを作り出すときには
その先のことをいろんな視点から
考えて予想しなければならない

２年間継続して実践を重ねた中学校では，学習してきた「内容」が役立つという回答よりも学習で身に付けてきた「力」が役立つという回答が大幅に上回りました。

実践を重ねた指導者からは…

「多面的・多角的」って
指導案などにも
よく使いますが，
わりと曖昧にしてきた
というか…

見えるーペを授業で用いる
ことで指導する自分はもちろん，
おそらく子どもたちも，
多面的・多角的に考えるとは
どういうことか，
はっきりイメージできたと思う。

モヤっとしていた
見方・考え方とか
資質・能力のイメージ
を明確にもてた気が
します。

他教科でも
いろいろな視点
から見通しを
立てて考えようと
する様子が
見られました。

これまでは
資質・能力と
いうより，
内容の習得に
偏り過ぎていた
かもしれません。

子どもたちの考え
を見取る引出しが
増えました。

例えば「文化」
という見えるーペ。
小学生にとっては
抽象的なので
「衣」「食」「住」
というように
具体的にしても
いいかもしれません。

中学生は
気候や地形，地質など
細かく具体的に
見えるーペを分けるの
ではなく，自然環境と
いうようにざっくり
くくったものもほしい
という生徒の声も
ありました。

小学校と中学校の
教員の指導観を
揃えるツールとして
見えるーペが
有効に感じます。

単元や毎時の授業の中でどのように学習活動を位置付け，そして視点の自覚化を促したのか，
実践の具体を示した論文や授業で使える成果物などをホームページに掲載しております。
ぜひQRコードからアクセスしていただき，実践の参考にしていただければと思います。

発　行　　令和４年３月

発行元　　京都市総合教育センター　研究課・カリキュラム開発支援センター
〒600－8023
京都市下京区河原町通仏光寺西入ル
TEL　075－371－2705
FAX　075－353－4851

詳しくはこちらを検索！